



9月7日に、「かわしま在宅サポートセンター」への引っ越しを無事に終えることができました。新居に移った介護保険サービスセンター、訪問看護、訪問リハビリ、訪問ヘルパーは、心機一転、日々の業務に取り組んでいます。川島整形外科病院の南に新事務所がありますので、是非一度お立ち寄りください！

皆さまの生活がより安心・安全なものとなるお手伝いができるよう、これからも精進してまいります。日々の生活や介護でお困りの際には、是非ご相談ください！

在宅事業部 主任 吉村 優一



デイサービスひだまり 秋のミニ運動会  
「菓子食い競争〜の巻」



通所リハビリ「床から立ち上がる練習」

## スタッフ★クローズアップ

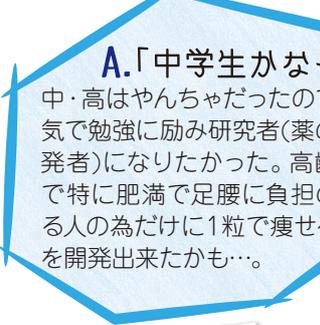
### Q. 人生戻れるならいつですか？



訪問リハビリテーション  
理学療法士  
宇留嶋佳苗

#### A. 「20歳前後」

かなりヤンチャすぎて親や祖母にかなり迷惑をかけたので、沢山勉強して、リハビリができる医者になれたらなあ…。



通所リハビリテーション科  
看護師  
真田ひとみ

#### A. 「中学生かなー」

中・高はやんちゃだったので本気で勉強に励み研究者(薬の開発者)になりたかった。高齢者で特に肥満で足腰に負担のある人の為だけに1粒で痩せる薬を開発出来たかも…。



ケアマネジャー  
隅野 貴子



ヘルパーステーション  
責任者  
入江小百合

#### A. 「高校生時代」

「死体解剖」に興味がありまして…。これに関する勉強に励むべく当時に戻りたいですね。

#### A. 「高校生」

今は介護の職についているけど、まじめに勉強して看護の職につきたいから。



# 安心して自宅へ退院できるために

在宅事業部 連携部

10月17日（火）に、「第1回法人内の医療と介護の連携を考える会」が開催されました。在宅部門より19名、病棟より6名の職員が参加し、活発な意見交換が行われました。

「自宅退院後に訪問看護で傷の付け替えをする患者に対し、傷の処置に使うガーゼや薬が処方されていない事がありました。訪問看護師による相談と病院の退院調整を担当する看護師の働きかけで、医療材料を担当医師から処方してもらう事ができるようになりました。」と、連携がうまくいった事例の報告がありました。



ケアマネジャーより「認知症のある利用者が入院した際、病院職員へ情報提供しているが、実際に役に立っているのを知りたい」という質問がありました。病棟看護師より「入院していると見えない自宅での生活情報があると大変助かる。その方の行動が普段通りなのか否かの判断につながる。」と返答があり、提供した情報が実際に役立っていることが確認できました。



お互いの顔が見える関係を作ると、お互いの仕事分かるようになります。病棟と在宅職員が垣根をなくし、スムーズな連携を行う事で、患者・利用者に良質のサービスを提供できるようにしたいと思います。



## 「お部屋の加湿について」

訪問看護師 眞邊 珠英

インフルエンザ予防といえば、「手洗い」「うがい」「予防接種」「マスクの着用」といろいろ言われていますが、部屋の環境はどうしていますか？



一般的に冬は部屋の温度を18～20度、湿度50～60%くらいがインフルエンザ予防には適しているようです。

御自宅に加湿器があればそれを使うのが一番ですが、ここでは加湿器を使わずに湿度を上げる方法をお知らせしたいと思います。

例えば、「室内で洗濯物を干す」「入浴後浴室のドアを開けておく」「部屋の床を水拭きする」といった洗濯や掃除のついでにできる方法。または「やかんや鍋のふたを開けて湯を沸かす」「部屋で鍋物をする」などといった料理のついでにできる方法もあります。これらの方法でも部屋の湿度を10%上げる事ができるそうです。

部屋の湿度も気にしながらインフルエンザを予防して、寒い冬も元気にすごしましょう。



## 事務所が 引っ越ししました



川島整形外科病院南側へ事務所を  
移転しました。